

米国 自動車価格の上昇がコア物価を押し上げ(06年9月生産者物価)

発表日：06年10月17日(火)

～2ヵ月連続で下落した反動であり生産者物価コアは安定している～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

生産者物価 (Producer Price Indexes)

	最終財		コア		エネルギー	中間財		原材料		<参考> 輸入物価コア		WTI
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	
06/01	+0.3	(+5.6)	+0.4	(+1.3)	+0.1	+1.0	+0.9	▲0.8	▲0.2	+0.3	65.5	
06/02	▲1.2	(+3.9)	+0.3	(+1.7)	▲4.5	▲0.5	+0.3	▲8.4	+3.1	▲0.7	61.9	
06/03	+0.4	(+3.6)	+0.2	(+1.7)	+1.5	+0.2	+0.4	▲2.6	+1.3	▲0.3	63.0	
06/04	+0.9	(+4.1)	+0.1	(+1.5)	+4.0	+1.0	+0.6	+2.6	+5.3	+0.1	70.2	
06/05	+0.1	(+4.5)	+0.3	(+1.5)	+0.8	+1.1	+1.1	+1.7	+9.2	+0.7	71.0	
06/06	+0.5	(+4.9)	+0.3	(+1.9)	+0.3	+0.4	+0.5	▲2.6	▲2.2	+0.4	71.0	
06/07	+0.1	(+4.2)	▲0.3	(+1.3)	+1.3	+0.5	+0.7	+3.1	+1.3	+0.1	74.4	
06/08	+0.1	(+3.7)	▲0.4	(+0.9)	+0.3	+0.4	+0.4	+2.2	▲2.8	+0.5	73.1	
06/09	▲1.3	(+0.9)	+0.6	(+1.2)	▲8.4	▲1.4	+0.1	▲3.4	+1.0	+0.1	63.9	

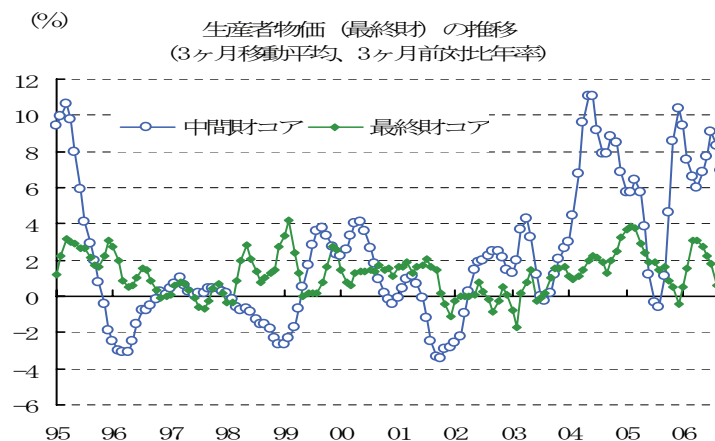
(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

コアは前月比+0.6%と市場予想を上回った

06年9月の生産者物価(最終財)は、前月比▲1.3%と下落幅が市場予想の同▲0.7%を上回った。食料品が同+0.7%とプラス幅を縮小したうえ、エネルギー価格は同▲8.4%と大幅に下落した。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、自動車価格の上昇によって同+0.6%と市場予想の同+0.2%を上回った。しかし、7、8月に▲0.7%ポイント下落した反動であり、前年同月比でも+1.2%と低い伸びにとどまっていることから、最終財コアは安定していると判断される。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率をみると、中間財(コア)が昨年12月をピークに5月まで低下傾向を辿ったため、4ヵ月程度遅れて影響を受ける最終財(コア)は9月にかけて鈍化傾向を辿った。10月以降、5、6、7月と中間財(コア)が上昇したため、最終財(コア)は上昇に転じると予想される。しかし、競争の激化や生産性の向上等を背景に、川中である中間財から川下である最終財への波及は限定的なものにとどまっている。このため、2004年以降中間財と最終財での変化率が大きく乖離しており、最終財は緩やかな上昇にとどまると予想される。



**資本財、消費財コア
ともに上昇**

最終財でのカテゴリ別の動向をみると、食品関連では生鮮・加工野菜、生卵、ソフトドリンクの鈍化に加えて、生鮮果物、加工七面鳥、お菓子の下落によって食品価格は前月比+0.7%（前月同+1.4%）と鈍化した。

エネルギーは前月比▲8.3%（同+0.3%）と大幅なマイナスとなった。天然ガスが同+1.8%（同+1.6%）と加速した一方、ヒーティングオイルが同▲18.5%（同+0.7%）、家庭用電力が同▲0.1%（同+1.3%）とマイナスに転じたことに加え、ガソリンが同▲22.2%（同▲2.2%）と下落幅を拡大した。

消費財（エネルギー・食料品を除く）は前月比+0.5%（前月同▲0.5%）と上昇に転じた。乗用車価格が9月同+2.8%（8月同▲2.6%、7月同▲0.8%、6月同+0.9%）と3ヵ月ぶりの増加となった。

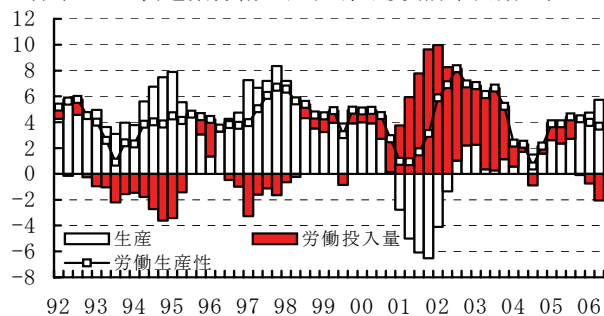
資本財は前月比+0.6%（同▲0.3%）と上昇した。変圧器・発電機がプラス幅を縮小し、さらに競争の激しいコンピューターが下落幅を拡大したものの、軽トラックが9月同+3.5%（8月同▲3.4%、7月同▲3.1%）と上昇に転じた。

生産者物価（最終財）コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

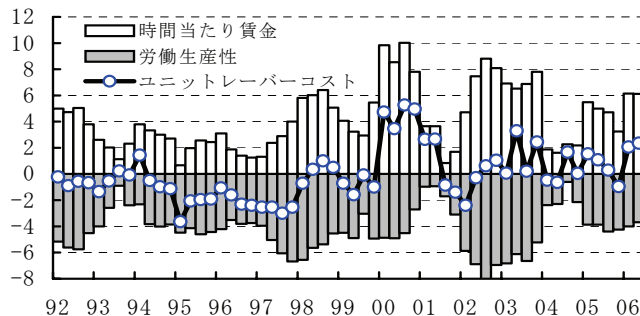
足下で商品価格、エネルギー価格は、世界的な景気減速懸念、ガソリン需要期の終了によって供給不足懸念が後退したことで下落している。この動きを受け、中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が9月に低下していること、川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で9月に+4.7%（前月+22.6%）と減速したことから、中間財コア（9月同+7.0%）は鈍化傾向を辿ろう。その結果、遅れて影響を受ける最終財の上昇ペースは、2007年1、2、3月に鈍化すると予想される。

その後も、製造業では①売上の増加による数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇が続こう。

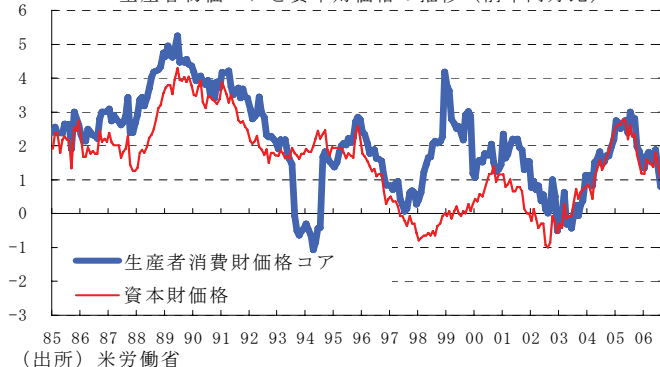
(%) 製造業労働生産性寄与度(前年同期比)



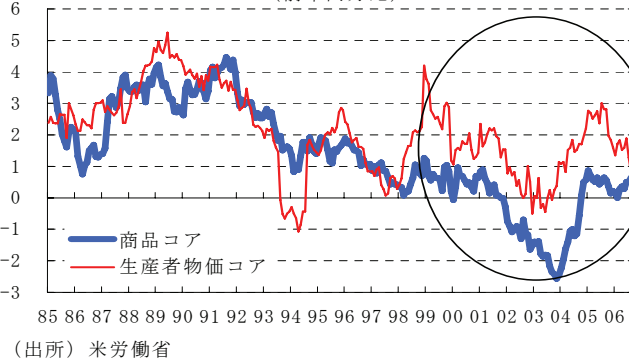
(%) 製造業U L Cの要因分解(前年比)



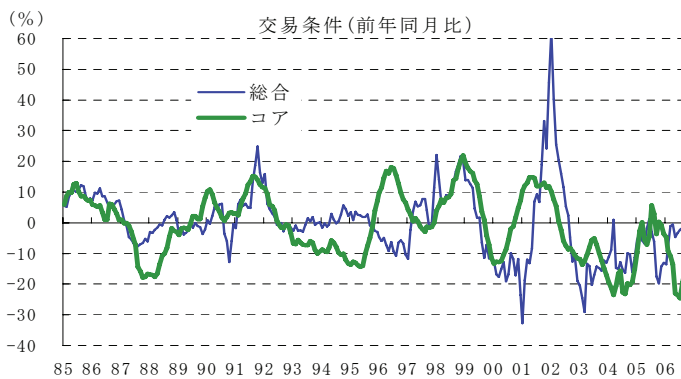
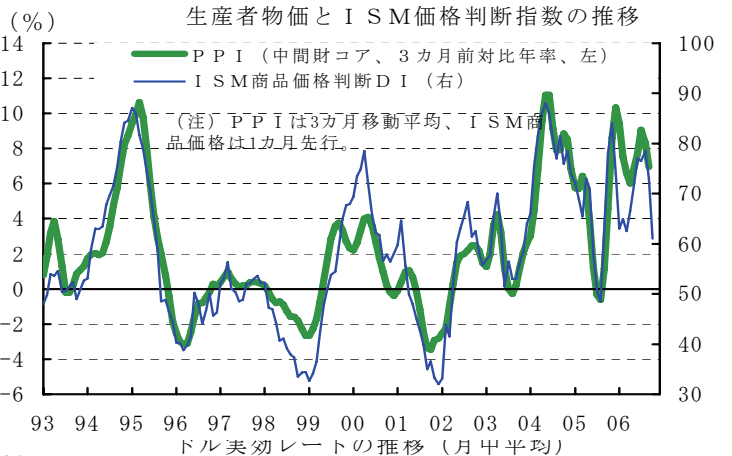
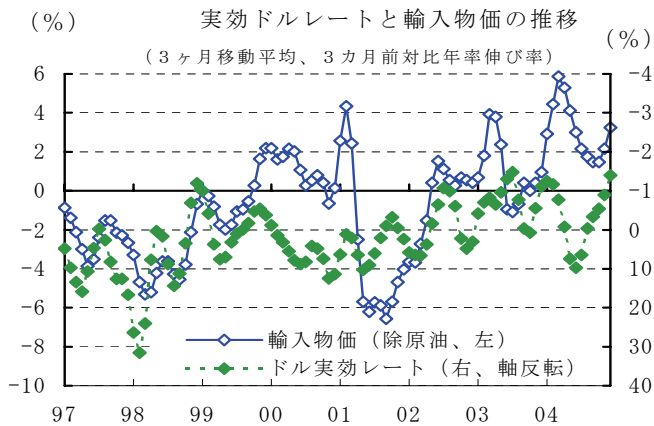
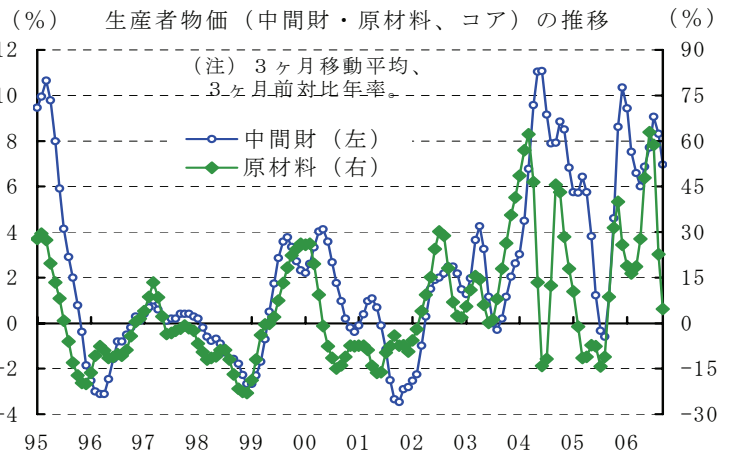
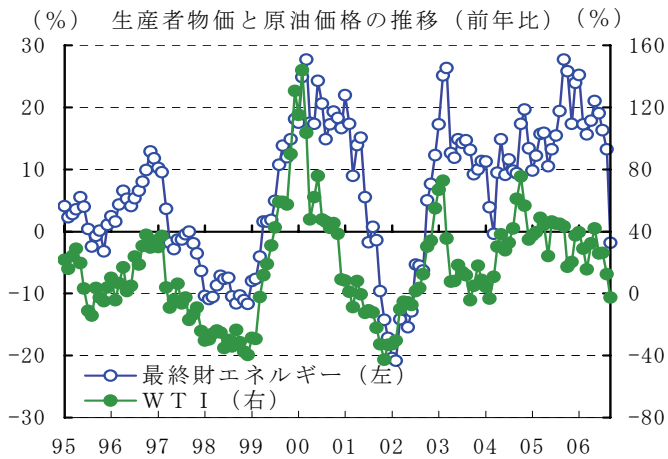
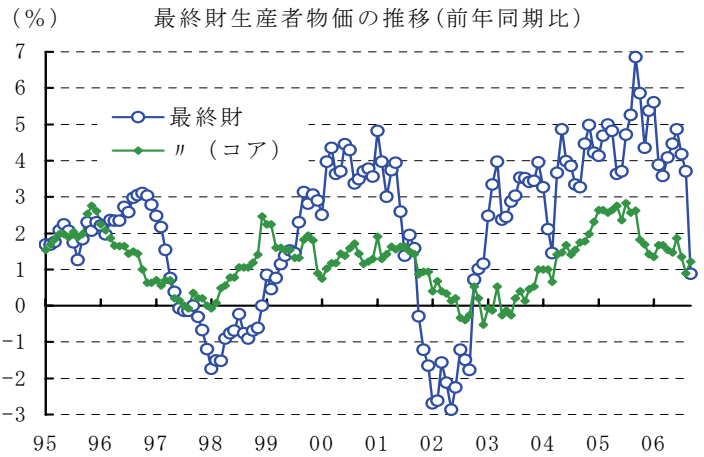
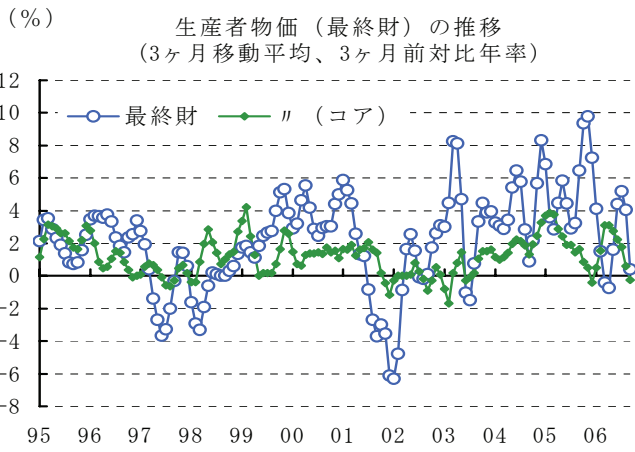
(%) 生産者物価コアと資本財価格の推移(前年同月比)



(%) 生産者消費財物価コアと消費者物価商品コア(前年同月比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。